

むくげの会の元会員・ 北原道子さんが亡くなられました

(『むくげ通信』331号、2025.7.27) **飛田雄一**

むくげの会（以下「会」）の元会員・北原道子さんが7月16日、亡くなられました。78歳でした。「会」の初期のころ約4年間、連れ合いさんの大阪転勤を契機に会員となって活動しました。北原さんの千里のマンションで「会」も度々、宴会をしました。朝鮮史セミナーの日であったかと思いますが、姜在彦先生も参加して、夜遅くまで飲んだこともあります。朝、「ちょっとビールが飲みたいなあ」という先生のリクエストに応えて、朝からビールを飲んだこともあります。

鹿嶋節子さんからの訃報のメールに次のようにありました。

「何年か前からパーキンソン症候群で身体が不自由になっていましたが、3年ほど前に大動脈剥離に加えて脳梗塞を発症し、半身不随となって、食べることができず鼻から栄養を入れるという状態でした。意識はあるとのことでしたが、自分では話もできずわずかに目をパチパチして意志を伝えられる程度で、それもだんだん難しくなっていました。／鹿嶋が先月見舞った時には、わかつてくれたのかどうかはっきりしませんでした。死因はたぶん「肺炎」ということになるのだと思います。／北原さんが大阪にいたのは4年に満たない短い時間でしたが、関西を離れてからもずっと一緒に遊んだり勉強したり、楽しい思い出がたくさんあります。／こんなに早くわかることになってしまったのは残念で、とても寂しいのですが、最後は寝たきりになってしんどかったはずで、やっと楽になれたんだと思うことにします。」



北原さんは、東京に移ってからも勉強をつづけ、2014年、『北方部隊の朝鮮人兵士－日本陸軍に動員された植民地の若者たち』（現代企画室）を出版されました。東京で参加した在日朝鮮人史研究関東部会で発表した報告などをまとめたものです。その出版記念演奏（朝鮮史セミナー）が神戸学生青年センターがありました。



朝鮮史セミナー、2014.11、右から3人が北原さん

本の著者紹介には、次のようにあります。

「1947東京生まれ。1970年代の初め、「神戸むくげの会」で朝鮮語と朝鮮の歴史・文化を学び始める。1970年代半ばから現在まで「現代語学塾」で朝鮮語を学ぶ。1990年代から樺太・千島・北海道にあった旧日本陸軍の部隊に動員された朝鮮人兵士について研究を始め、韓国などで元兵士たちのインタビューを続ける。在日朝鮮人運動史研究会会員。」

本の帯には、次のようにあります。

「アジア太平洋戦争において、朝鮮半島の若者たちは何人くらい日本軍に動員されていたのか？」ふとしたきっかけで生じた疑問から始まった、20年以上に及ぶ丹念な調査・研究の成果。未公刊の日本軍名簿に残された朝鮮人青年たちの名前ひとつひとつから、戦争と植民地支配にまつわる知られざる事実が次々と浮かびあがる。」

「むくげ通信」（以下、「通信」）264号（2014.5.25）に「『北方部隊の朝鮮人兵士－日本陸軍に動員された植民地の青年たち』」を刊行して」を寄稿しています。今回ホームページ・「通信」総目次に貼り付けましたのでご覧いただければ幸いです。

東京では、現代語学塾、在日朝鮮人の国民年金裁判、在日朝鮮人史研究関東部会などで活躍しました。現代語学塾では梶村秀樹さんらと『常緑樹』の翻訳出版にたずさわっています。

強制動員真相究明ネットワークの第2回研究集会（2007.11、中央大学）では、「日本陸軍北方部隊にいた朝鮮人－ある朝鮮人少年戦車兵の聞き取りから」の題で報告しています。

北原さんの「通信」の記事は以下のとおりです。

初期に「史片」をよく担当されていました。(※)はホームページでご覧いただけます。

●15号(1972年11月5日)〈隨想〉朝鮮語を学びはじめて●21号(1973年11月18日)書評 金九著、梶村秀樹訳『白凡逸志—金九自叙伝』●22号(1974年1月27日)研究報告—関東大震災と朝鮮人虐殺、⑥日本人の対応●25号(1974年7月14日)人物朝鮮史(5) 柳寛順●26号(1974年9月22日)書評 T・K生『韓国からの通信』●28号(1975年1月26日)時評・韓国民主回復闘争と東亜日報の闘い●29号(1975年3月16日)特集・<東亜日報>④拘束者の「釈放」●32号(1975年9月28日)人物朝鮮史(11) 金佐鎮●33号(1975年11月30日)史片(1) 「漢城旬報」●34号(1976年1月25日)史片(2) 江華条約●35号(1976年3月28日) <むくげの会五年間をふりかえって>⑩むくげでの三年間●35号(1976年3月28日)史片(3) 元山ゼネスト●37号(1976年7月18日)史片(4) 奉章閣●38号(1976年9月26日)史片(5) 6・10万才運動●39号(1976年11月28日)史片(6)「独立新聞」●40号(1977年1月30日)権域(25)ユンノリ●41号(1977年3月27日)隨想 現代語学塾のこと—むくげ東京支店より—●43号(1977年7月17日)人物朝鮮史(21)洪蘭坡●45号(1977年11月27日)史片(11)断髪令●47号(1978年3月25日)人物朝鮮史(25)張志淵●48号(1978年5月28日)時事雑感「在日朝鮮人の国民年金」●49号(1978年7月23日)研究報告 朝鮮開化期における女子教育●50号(1978年9月24日)隨想 「血の交った交流」ということ●51号(1978年11月26日)史片(16)花柳会●52号(1979年1月28日)権域(32) 唐辛子●53号(1979年3月25日)ノレ・うた(15)半月(パンダル)●57号(1979年11月25日)時評 金鉢鉤氏の国民年金裁判●67号(1981年7月19日)人物朝鮮史(43) 尹奉吉●74号(1982年9月26日)史片(39) 朝鮮のヴ・ナロード運動●77号(1983年3月27日)隨想『常緑樹』の翻訳をふりかえって●80号(1983年9月25日)書評『サハリンへの旅』●82号(1984年1月29日)書評『いわれなく殺された人々—関東大震災と朝鮮人—』●86号(1984年9月30日)書評『慶州は母の叫び声』●86号(1984年9月30日)書評『慶州は母の叫び声』●95号(1986年3月30日)書評『朝鮮人BC級戦犯の記録』●115号(1989年7月30日)書評 金善慶著『うかれがらす』●125号(1991年3月31日)訪問記 石巻に布施辰治の生家を訪ねて(※)●129号(1991年11月24日)映評 「金日成パレード」●133号(1992年7月19日)隨想 北海道は刺激的●136号(1993年1月31日)隨想 芝居の魅力と出会いの素晴らしさと●151号(1995年7月23日)子連れ今浦島韓国旅行記●170号(1998年9月27日)第9回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会に参加して(※)●182号(2000年9月24日)故郷の村(サハリンからの帰国者住宅)を訪ねて(※)●184号(2001年1月)むくげの会・30年をむかえて、私にとっての「むくげの会」●187号(2001年7月)同(2)北朝鮮で会った人々●188号(2001年9月)本の紹介:北朝鮮を知るために、

ノルベルト・フォラツェン『北朝鮮を知りすぎた医者』、ケネス・キノネス『北朝鮮 米国務省担当官の交渉秘録』●198号(2003年5月)研究レポート「満州」建国大学における朝鮮人学徒動員(1) ●199号(2003年7月)「満州」建国大学における朝鮮人学徒動員(2) ●213号(2005年11月27日)「高麗博物館」を訪ねる 東京コリアタウン・大久保にある市民交流の博物館(※) ●221号(2007年3月25日)「朝鮮人第五方面軍留守名簿」に記載された朝鮮半島出身軍人の供託金について●264号(2014年5月25日)『北方部隊の朝鮮人兵士—日本陸軍に動員された植民地の青年たち』を刊行して(※) ●270号(2015年5月31日)江景を歩く

■
『在日朝鮮人史研究』には以下の論文を発表しています。

●<26号>1996年9月、北海道の朝鮮人兵士動員●<28号>1998年12月、樺太における朝鮮人兵士動員●<30号>2000年10月、朝鮮人学徒兵経験者吳昌禄さんに聞く●<32号>2002年10月、朝鮮人兵士を主に編成された日本陸軍特設作業隊・臨時勤務隊について—北海道と樺太の場合●<36号>2006年10月、「朝鮮人第五方面軍留守名簿」にみる樺太・千島・北海道部隊の朝鮮人半島出身軍人●<38号>2008年10月、朝鮮少年戦車兵—北千島占守島に動員されたハラボジの聞き取りから



姜在彦先生講師の南大阪ツアー、右が北原さん、1970年代

他に、翻訳として、鄭惠瓊「韓国内所蔵戦時体制期朝鮮人への動員関連名簿資料の実態及び活用方法」(『在日朝鮮人史研究』40号、2010年10月)、対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会編『シベリアに抑留された朝鮮人捕虜の問題に関する真相調査:中国東北部に強制動員された朝鮮人を中心に』(2013年)があります。『強制動員を語る一名簿編』(強制動員を平和叢書(韓国語、2011年)にも論文を発表しています。

寂しさが消えません。心からご冥福をお祈りします。